

米作りが 伝わってからの生活

食糧が安定する時代へ

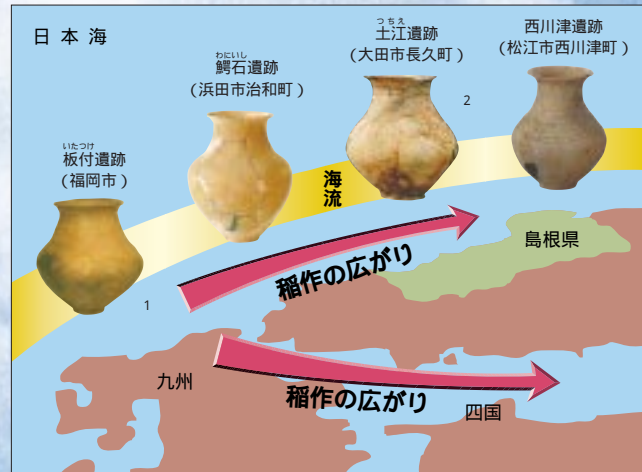
現在、私たちの主食となっている米。この米作りが日本に伝わったのは、今からおよそ三三〇〇年前のことです。

この時代の稲作の実態を示す跡が、島根県では平野部を中心に数多く発見されました。人びとに安定した食糧をもたらす稲作が定着していくことにより、採集と狩猟中心の生活は大きく変わっていきました。

米作りの広がりを知る

大陸から九州北部に伝わった米作りは、二〇〇年とかからないうちに全国に伝えられたと考えられています。これを証明するものとして、この時代の北九州産の土器と技術的に共通する土器が、大社町の原山遺跡をはじめ、日本各地で見つかっています。稲作と土器の技術は、人の移動により短期間のうちに西日本から東日本へと伝わっていきました。

写真提供： 1 福岡市教育委員会 2 波多野弘治氏



国内での稲作の広がり
大陸から九州北部に伝わった稲作は、土器作りの技術とともに全国に広がっていった。



島根で発見された弥生時代の水田跡 (松江市・夫敷遺跡)

古代の米を探る

この時代、日本にもたらされた米は、現在私たちが食べているものとは多少異なつた特徴を持つものでした。その特徴を残すものとして、現在わずかに残る赤米が知られています。赤米は、古代から作られていたことが知られており、その姿には昔ながらの特徴が残っています。



現在、わずかに残る赤米。現代の米よりたけも長い。

現代の米 上と赤米(下) (ともに玄米)
穂の先には、ノギと呼ばれる毛が生えている。このノギにより、鳥などのエサになりにくい。

